

平成28年12月24日

平成28年申年、猿が主役にもなる神奈川県内の庚申塔を紹介します(3回)

(4) 神奈川県内の庚申塔の要約

(1) 県内の庚申塔と着属の要約(平成26年末時点で単位は基数)

本表は藤沢市在住の鷹取 昭氏の資料を基に作成しました。

地区/区分	数量総計	青面金剛	鶏	邪鬼	摘要
横浜市	1233	648	266	333	
川崎市	330	238	84	93	
相模原市	402	93	7	3	
横須賀市	1002	339	78	201	
藤沢市	424	176	21	38	猿は延べの概数700匹
鎌倉市	337	68	10	18	
平塚市	179	49	7	5	猿は延べの概数350匹
茅ヶ崎市	90	35	5	3	
小田原市他	267	41	17	17	二宮・大磯・湯河原・箱根町を含む
大和市他	269	7	7	18	綾瀬・座間市、寒川町含む
三浦市	504	51	51	135	

注記 上表には厚木・秦野・伊勢原・逗子市、葉山町は含まれていません。

猿は一～三猿、親子など四猿、五猿の外、三十六匹の群猿もあります。

鶏は猿より遅れて登場、大部分が二鶏で稀に一鶏や三鶏もあります。

邪鬼は祟りをする神で、青面金剛の足に踏みつけられ、一邪鬼が多い。

(2) 庚申塔・地藏などが何故に多く造立されたのでしょうか

庚申塔は庚申待を6回/年、3年間で18回行くと三尸の虫は死に絶え、長寿が出来き、その供養として造立したと云われていますが、石造物造立のいわれに、『大日経引導便蒙』^{びんもう}の中に「一見卒塔婆 永離三悪道 何況造立者 必生安楽国」の偈頌^{げしゅ}があります。要約すると「石仏を拝めば地獄・餓鬼・畜生道に落ちることはなく、造立者に於いては極楽浄土に往生は間違いなし」と信じての建立と考えられます。

(3) 県内の珍しい庚申塔や着属を写真で紹介します

写真は平塚在住の佐野英三、関根 武両氏の協力をえまして
 一猿は藤沢市藤沢2-4-7白幡神社に石仏が集められています。その数は青面金剛像7基、三猿が5基、文字塔が14基、彫りのわからない石仏も数基あります。この像容は合掌の雌ザルで寛文5年(1665)市の指定文化財となっています。



また、鎌倉市内には「塔頂猿」と云う四角柱の頂上に一猿を彫ったものが7基あり、別に桃を持つものもあります。

二猿～群猿

二猿
 茅ヶ崎市行谷金山神社
 承応4年(1655)
 県指定の文化財

三猿
 相模原市南区磯部 1191
 文字塔の台石に御幣を担ぐ
 傍に34基もの文字塔が並ぶ

五猿

群猿
 藤沢市江の島
 4面の各面に9匹の猿が
 思い思いに舞っています
 制作年は不明です



右の庚申の石祠内
 懸仏の二猿と合せ
 五猿。厚木市林
 寛永9年(1632)



一猿一鶏
 藤沢市本町 常光寺 万治2年(1659)
 正面上段に種子の阿弥陀三尊、次に大日報身真言、
 下部に写真の猿と鶏。残る3面に六字名号が彫ら
 れた庚申塔です

一猿・二猿・三猿が整列
 小田原市小八幡の八幡神社
 一猿の塔上部に種子「ダクマン」の
 珍しい彫りがあり元禄4年(1691)
 三猿は元禄13年製で上部欠損



青面金剛と眷属



保土ヶ谷区天王町橘樹神社
寛文 9 年 (1669)
市内最古の六臂青面金剛



藤沢市藤沢の庚申堂の左の像
衣の裾に二鶏、邪鬼を踏みつけ
左手ではショケラを掴む
寛文 13 年 (1673) 制作



神奈川区子安通 遍照院
享保 8 年 (1723)
二童子、三猿の間に二鶏
が入っています



鎌倉市坂ノ下御霊神社
享保 8 年 (1723)
三猿が波乗りを楽しむ



横須賀市芦名安穩寺
天保 14 年 (1843)
禪をした邪鬼を両足で踏み
つけ、三猿が囲んでいます



三浦市南下浦町十劫寺前
どくろ
髑髏が体に巻きつき、
三猿は互い手を伸ばし
目耳口を塞いでいます
明治 5 年 1872 制作

以上

来年は「酉」年です。
よろしくお願ひし
ます。

